

現 行

補 助 金 ・ 交 付 金 チェックシート (No.1)

補 助 金 名 (交付金名)	一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構補助金	開 始 年 度	平成２１年度
団 体 名	一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構	団体等 の状況	☒ 課税事業者 ☐ 免税事業者
※対象が個人の場合は ☒ 不要			
助成の根拠規定等 (条例・規則・要綱等)	一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構補助金交付要綱 函館市補助金等交付規則		

○補助事業の内容および目的・効果

内 容	函館国際水産・海洋都市構想の推進母体である一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構の運営費の一部を補助するもの。
目 的	(目 的) 当該団体は、函館国際水産・海洋都市構想の推進母体として地域の産学官により設立され、学術研究機関の集積や、市民との調和など、同構想の推進を図ることを目的とする。
・ 効 果	(効 果) 次代の水産・海洋分野の発展を担う人材の育成、学術研究機関の集積や地域の産学官連携の促進などにより、地域の優位性を活かした新産業・雇用の創出を通じた地域経済の活性化が図られる。

○補助事業の収支状況 ※上段:補助事業等に要する経費 [下段]:補助対象経費 (単位:千円)

	年 度	助 成 金		事業収入	別会計繰入金	繰越金	雑入	計
		市	その他					
収	R5 (決算)	12,118 [12,118]			189		59 [59]	12,366 [12,177]
	R6 (決算)	12,262 [12,262]			526 [391]		105 [67]	12,893 [12,720]
	R7 (予算)	14,601 [14,601]					154 [154]	14,755 [14,755]
入	R7 (決見)	12,349 [12,349]			1,157 [298]		168 [77]	13,674 [12,724]
	R8 (予算)	14,032 [14,032]					169 [169]	14,201 [14,201]
支	年 度	人件費	事務費	事業費	上部団体負担金等			計
	R5 (決算)	8,896 [8,896]	1,361 [1,237]	2,109 [2,044]				12,366 [12,177]
	R6 (決算)	8,921 [8,921]	1,375 [1,288]	2,597 [2,511]				12,893 [12,720]
	R7 (予算)	11,205 [11,205]	1,283 [1,283]	2,267 [2,267]				14,755 [14,755]
	R7 (決見)	9,744 [9,005]	1,414 [1,287]	2,516 [2,432]				13,674 [12,724]
	R8 (予算)	11,083 [11,083]	1,275 [1,275]	1,843 [1,843]				14,201 [14,201]

※１ 補助事業にかかる決算確定後(実績報告時等)速やかに更新 ※２ 予算内示後速やかに更新

改 正 後

補 助 金 ・ 交 付 金 チェックシート (No.1)

所管部課 企画部水産海洋・高等教育担当

補 助 金 名 (交付金名)	一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構補助金				開 始 年 度	平成２１年度
補 助 区 分	☐ 国・道等の制度に基づく ☒ 団体運営		☐ 条例・規則に基づく ☐ まつり・イベント			
予 算 科 目	款	総務費	項	総務管理費	目	企画費
	大事項	国際水産・海洋都市構想推進費				
	中事項	一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構補助金				

交付先団体名	一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構	団体等 の状況	☒ 課税事業者 ☐ 免税事業者
団体の設立目的・ 役割・構成員・ 人数	(設立目的)「函館国際水産・海洋都市構想」のもと、函館地域の水産・海洋に関する恵まれた資源や潜在的な能力を活用することにより、函館を世界中から研究者が集う「国際的な水産・海洋に関する学術研究の拠点都市」とし、もって、次代の水産・海洋分野の発展を担う人材の育成や革新技術・新産業の創出を通じた地域経済の活性化を図るとともに、地球規模の諸問題に対応する学術研究機能を構築し、人類の未来に貢献すること。 (構成員)評議員8名、理事7名、顧問1名、職員14名		

助成の根拠規定等 (条例・規則・要綱等)	一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構補助金交付要綱 函館市補助金等交付規則
-------------------------	---

○補助事業の内容および目的・効果等

内 容	函館国際水産・海洋都市構想の推進母体である一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構の運営費の一部を補助するもの。
目的・効果	(目 的) 当該団体は、函館国際水産・海洋都市構想の推進母体として地域の産学官により設立され、学術研究機関の集積や、市民との調和など、同構想の推進を図ることを目的とする。 (効 果) 次代の水産・海洋分野の発展を担う人材の育成、学術研究機関の集積や地域の産学官連携の促進などにより、地域の優位性を活かした新産業・雇用の創出を通じた地域経済の活性化が図られる。

総 合 計 画 と の 関 連	基本 構想	基本目標	1 まちの賑わいを再生し未来へ引き継ぎます
		施策項目	⑤ 学術研究機能の充実
	総合 戦略	基本目標	―
		施策項目	―
個 別 計 画 と の 関 連	計画名		函館国際水産・海洋都市構想
	K P I		―

現在設定している 補助金の終期	令和８年度	直近チェック・ 評価時等の指摘 事項や課題の 内容と対応	(課 題) マリンフェスティバルの必要性・妥当性・有用性および自主財源の確保
前回チェック年度 (直前の終期年度)	令和５年度		(対応策) マリンフェスティバルについては、函館国際水産・海洋都市構想の推進に向けて、「海」をテーマとした市民参加型のイベントとして開催しており、次代の水産・海洋分野の発展を担う人材の育成の一助となっている。今後についても、より一層の経費節減と内容の充実に努めるとともに、アンケートの実施により効果を確認する。また、自主財源の確保など、自主性を高めるよう継続的な検討を働きかける。
最終見直し年度	令和８年度		
こ れ ま で の 見 直 し 内 容	令和８年度に対象経費の見直しを行い、マリンフェスティバルにおけるシャトルバス運行の廃止を行い、経費削減を行った。		

現 行					改 正 後				
補 助 金 ・ 交 付 金 チェックシート (No.2)					補 助 金 ・ 交 付 金 チェックシート (No.3)				
補 助 金 名 (交付金名)		一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構補助金			補 助 金 名 (交付金名)		一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構補助金		
○基本的視点の再チェック					○基本的視点の再チェック				
基 本 的 視 点		適	不適	説 明	基 本 的 視 点		評価	説 明	
1	公益性 (明確な公益性があるか) ①広く市民生活の向上に貢献 する事業 ②市民ニーズが高い事業	☒	☐	当機構は、函館国際水産・海洋都市構想の推進母体として、新産業の創出を通じた地域経済の活性化を目的に、地域産学官により設立された公益性の高い団体である。	1	公益性 (事業効果が広く市民全体の利益につながるか) ①受益者が広く、市民生活の向上に 貢献するか ②社会的な意義・緊急性があるか	A	当機構は、函館国際水産・海洋都市構想の推進母体として、人材育成や新産業の創出を通じた地域経済の活性化を目的に、地域の産学官により設立された公益性の高い団体である。また、水産・海洋分野に関する市民向けイベントの開催や子どもたちを対象とした体験学習など、市民全体の利益に繋がる事業を実施しており、社会的意義も高い。	
2	必要性（補助しなければならない事業であるか）	☒	☐	構想の推進や地域の産学官連携を促進していくためには、当機構の活動が不可欠であり、継続的かつ基本的な運営には補助が必要である。	2	必要性 (市が補助しなければならない理由が明確か) ①施策目標・事業目的の達成に不可欠か ②民間・他団体や国・道補助制度では 代替できないか ③事業を廃止した場合の影響は大きい か ④情勢の変化で必要性が薄れてないか	A	構想の推進や地域の産学官連携を促進していくためには、当機構の活動が不可欠であり、継続的かつ基本的な運営には補助が必要である。また、他団体や国・道の補助制度で代替できるものではなく、構想の推進や水産海洋分野における学術研究機関等と地域との連携推進は重要であり、補助を廃止した場合にはその影響が大きい。	
3	自主性（自主自立に向け努力しているか）	☒	☐	構想を推進していくため地域の産学官により設立された団体であるが、自主財源の確保などに努めることがより一層望まれる。	3	自主性（自主自立に向け努力しているか) ①自主財源拡大の具体的な取組を実施 しているか ②補助金依存率が改善傾向にあるか 【補助金依存率】※再掲 R6:95% → R7:90% → R8予算:99%	B	構想を推進するため地域の産学官により設立された団体であり、市補助金への依存度は高く、近年の管理経費の増加等により補助金も増加傾向にあることから、自主財源の確保に向け、機構が有する知見やネットワークを活用した受託研究などの獲得に、より一層取り組むことが望まれる。	
4	有効性（他の手法ではなく補助することが、施策目的実現に最適か）	☒	☐	構想の推進や地域の産学官連携を促進していくための団体であり、委託や負担金はなじまない。	4	有効性 (補助することが施策目的実現に最適な手法か) ①直営・委託等の他手法と比較検討したか ②K P I の目標達成に向け取り組んでいるか	A	構想の推進や地域の産学官連携を促進する役割を担う団体であり、その事業内容から委託や負担金はなじまない。また、研究開発支援数・社会実装数を成果指標として設定し、研究センター入居機関への支援を通じて構想の推進に貢献している。	
※適・不適であっても、説明欄は必ず記載してください。					※どの評価の場合も説明欄は必ず記載してください。 ※A：適当，B：一部課題等有，C：不適當，―：該当なし				
○財政的視点のチェック					○財政的視点のチェック				
財 政 的 視 点		不適		不適の場合の理由と今後の対応について	財 政 的 視 点		評価	説 明	
1	積算内訳は、前年踏襲となっていないか	☐			1	積算内訳は、前年踏襲となっていないか	A	経費については、実績を基に毎年予算編成時に精査をしている。	
2	補助金等の使途は適切である	☐			2	補助金等の使途は適切であるか	A	実績報告書・精算書類で使途を確認している。	
3	積算基準は定められている	☒		積算基準を設けていないが、当該団体の継続的な団体運営に係る基本的な人件費や事業費については、それぞれの積算に基づき算定している。	3	積算基準は定められているか	B	積算基準を設けていないが、当該団体の継続的な団体運営に係る基本的な人件費や事業費については、それぞれの積算に基づき算定している。	
4	補助割合は、補助対象経費の1／2以内である	☒		当該機構は公益性が高く、構想の推進や地域の連携には当該機構の活動が不可欠なため、当該団体の基本的かつ継続的な運営にかかる経費として、1／2以上の補助としている。	4	補助割合は、補助対象経費の1／2以内であるか 【補助率実績】※再掲 R6:96% → R7:97% → R8予算:99%	B	当該機構は公益性が高く、構想の推進や地域の連携には当該機構の活動が不可欠なため、当該団体の基本的かつ継続的な運営にかかる経費として、1／2以上の補助としている。	
5	前年度繰越金は生じていないか	☐			5	前年度繰越金は生じていないか (生じた場合は今回交付で増加しないか)	B	単年度事業であり、前年度繰越金は生じていない。	
6	自主財源の確保に努めている (最低でも前年度の収入を確保しているか)	☐			6	自主財源の確保に努めているか 【自主財源比率】※再掲 R6:1% → R7:1% → R8予算:1%	A	構想を推進していくため地域の産学官により設立された団体であるが、自主財源の確保などに努めることがより一層望まれる。	
7	経常経費の節減に努めているか	☐			7	経常経費の節減に努めているか 【管理的経費比率】※再掲 R6:79% → R7:75% → R8予算:87%	B	経常経費のうち人件費の占める割合が大きく経常経費を大幅に削減することが難しいが、人件費を除く事務費等の経常経費の削減に努める。	
※不適の場合は、説明欄に必ず記載してください。					※どの評価の場合も説明欄は必ず記載してください。 ※A：適当，B：一部課題等有，C：不適當，―：該当なし				

現行

補助金・交付金チェックシート (No.3)

補助金名 (交付金名)	一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構補助金
----------------	---------------------------

○補助効果の検証

(効果測定方法, 具体的な数値等)

①外部資金（受託研究費等）の獲得・調達
②イベント, 後援会, シンポジウムなどの開催

(達成状況)

令和6年度実績
①1件500,000円
②函館マリンフェスティバル2023 来場者8,458名

令和7年度実績
①1件500,000円
②函館マリンフェスティバル2024 来場者8,861名

※継続事業は, 直近の実績 新規事業は, 効果のみ記載してください。

(評価)	十分効果をあげている☐ 一定の効果をあげている☒ 効果が疑問である☐ その他☐	(理由)	研究受託のほか, マリンフェスティバルの実施により, 水産海洋へ触れる機会の創出につながっている。
------	--	------	---

○今後の方向性

☐	現行のまま補助を継続	(見直しの内容※現行のまま継続の場合はその理由を記載)
☒	見直したうえで補助を継続	
☐	廃止	
☐	その他	
(廃止の理由)		(見直しの時期)
(廃止の時期)		
(その他の内容)		

○終期の設定

※3年間を目途とした終期を設定し, 終期到来年度には必ず見直しを検討すること

終期設定	☐	終期到来により廃止	次回チェック年度(予定)
令和11年度	☒	終期到来時に再検討	

改正後

補助金・交付金チェックシート (No.4)

補助金名 (交付金名)	一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構補助金
----------------	---------------------------

○補助効果の検証

【成果指標 (KPI)】

指標区分	指標名		指標の定義・測定方法					単位
アウトプット (活動量)	研究開発支援		函館国際水産・海洋都市推進機構による函館市国際水産海洋総合研究センター入居機関への支援数					件
	R5 実績	R6 実績	R7 目標(予算)	実績	R8 目標(予算)	終期目標 R11 年度	直近達成率 (R7) [%]	終期目標に対する R7進捗率 [%]
	3	4	—	5	6	9	—	55.6

指標区分	指標名		指標の定義・測定方法					単位
アウトカム (成果・効果)	社会実装数		令和6年度から函館市国際水産海洋総合研究センター入居機関による実装数 (累積)					件
	R5 実績	R6 実績	R7 目標(予算)	実績	R8 目標(予算)	終期目標 R11 年度	直近達成率 (R7) [%]	終期目標に対する R7進捗率 [%]
	—	6	—	7	8	11	—	63.6

○今後の方向性

☐	(A) 現行のまま補助を継続	(見直しの内容※現行のまま継続の場合はその理由を記載)
☒	(B) 見直したうえで補助を継続	
☐	(C) 廃止	
☐	(D) その他	
(廃止の理由)		(見直しの時期)
(廃止の時期)		
(その他の内容)		

○次期終期の設定

※3年間を目途とした終期を設定し, 終期到来年度には必ず見直しを検討すること

終期設定	☐	終期到来により廃止
令和11年度	☒	終期到来時に再検討

※直近で設定した終期にまだ到達していない場合は直近終期を転記すること

4